

市長就任に当たっての抱負などを聞きました



甲斐 元也 (かい もとなり)

昭和21年佐渡市生まれ。東京農業大学卒業。平成20年から約3年に渡り佐渡市副市長として市政に携わってきた。

前例にとらわれない行動力で責任をとる市政を！と掲げ、農林水産業、観光振興を中心に取り組む。

座右の銘は尊敬する母親から常に言われている言葉「感謝」。

市長になられて、今の感想を お願いします。

大勢の方からご支援をいただき、これが大変だと改めて責任を感じております。

私は高校を卒業してからずっと故郷を離れていましたが、佐渡で生まれた人間として、佐渡のために精一杯頑張らせていただきます。

抱負をお聞かせください。

まず、自立できる島にしたいと思っています。今までは依存体質にあったと思うのです。依存が悪いとは申しませんが、依存だけというのは良くないので、やはり自立をしていかなければならない。佐渡にはいろんな財産が他の市町村に比べてもありません。それを活用して自立をするということです。

もうひとつは、若者が集う島にしたいと思っています。独自の農業、環境保全型の農業を佐渡でやりたいという若者を佐渡に連れて来たいと考えています。それから製造加工においても、若者が入りこんだPRしてもらいたいと思います。また販売では、実際に佐渡の物産をネット販売している若者がいますが、今はそれぞれ点で存在し

ているため、それらをつないで点から面にし、佐渡全体で支え合いながら取り組む体制を考えています。

その他、高齢化社会への対応として、元気な高齢者には働く場を斡旋し、収入もあり健康維持にもなるような仕組みづくりをしたいと思います。

もちろん、看護師や介護士も足りないの、既存の奨学金制度を活用して雇用の拡大を図っていききたいと思っています。行政として募集するのはもちろん必要ですが、現在佐渡で同職に携わる若者からブログ等を活用して発信してもらおうということも同時に考えています。

特に力を入れて行きたい施策など ありますか。

雇用、観光、過疎の3Kについて、重点的に取り組んでいきたいと思っています。

私は元気ビジョンという形で5つの施策方向を出させていただきました。何と言っても、左の横綱は農林水産業の底上げと活性化、そして右は観光振興であると考えています。特に農林水産業については生産部門だけでなく、そこに加工や製造を持たせ、販売戦略を組み立てていく。今までは本土に任せていた部分を佐渡で行うことで、雇用も増やしていけると考えています。また観光については、着地型観光を

徹底してやろうと思います。佐渡に来て「来てください」と言っているだけでなく、観光大使として出向いて行く。また、観光ニーズそのものが変わってきているので、宿泊数を増やすということに取り組みたいと思います。そのためには、ごちそうの提供ともてなすが必要です。その基本がやはり農林水産物です。そういう意味で、農林水産業の振興が重要ということです。

市民のみなさんへ メッセージをお願いします。

私は、汗水流して働いている人たちが報われる施策をやりま。それにはまず自分自身がいわゆる公僕に徹するということです。もうひとつは地域のことは地域の方が一番よくご存じですから、地域の方と一緒に頑張って頑張っていくということ。お約束させていたいただいたわけですから、それを守り、務めて参ります。

